

2024年2月28日 Vol.217

株高の中で注目される3月のIPO

日経平均がバブル経済下の史上最高値を34年ぶりに更新するなど、全体株価が上昇傾向を強める中で3月のIPOは15銘柄が予定されております。日経平均4万円台乗せを前に市場には上げピッチの速さに対して、警戒感が台頭しつつあり、その中で短期資金がIPO市場に向かう可能性も想定されます。海外投資家が日本株の中でも大型企業に投資した結果として日経平均やTOPIXが先駆して上昇をした一方でグロース250指数（旧マザーズ指数）はまだ比較的低水準に位置しており、株価低迷中の銘柄が多いという状況ですが、物色の矛先が直近IPOを含めた中小型銘柄にも向かうとの期待が高まろうとしています。

このところの株式相場は、生成AIとそれを実現する最先端半導体への関心が高まっている点が特徴的となっておりますが、その潮流とは別にユニークなビジネスモデルを背景にした新たな成長志向企業の登場が待望されているとも言えます。2月22日までのIPO3銘柄が公開価格に対して概ね順調にスタートし、その後も比較的上昇傾向を辿ったことで今後のIPO銘柄にも注目が集まる可能性があります。

3月最初のIPOは21日の2銘柄。23期連続増収という実績を誇る九州・福岡を地盤にエブリディロープライス型の小売業を全国311店舗で展開するトライアルホールディングス（141A）は、通常の小売業のほかりテールAI事業を展開するなど店舗DX化を進めており、前6月期の業績は売上6531億円、経常利益143億円という規模でIPOの段階で既に事業規模が大きいのですが、グロース市場への上場を予定。時価総額は1000億円以上の水準が想定されます。もう一つは情報通信機器や精密電気機器、自動車部品用のマグネシウム及びアルミダイカスト製品の製造販売のSTG（5858・G）。今3月期の売上高52億円（+11.4%）、営業利益2億78百万円（+41.8%）の規模です。

この後22日のジンジブ（142A・G・高卒就職採用支援）、25日のイシン（143A・G・企業の自治体向けマーケティング支援）から29日のグリーンモンスター（157A・G・体験型投資学習支援）、マテリアルグループ（156A・G・マーケティングコミュニケーション）と続きます。それぞれにユニークなビジネスモデルを背景に成長意欲をもったIPOですが、その内容については本コラムでも今後お伝えしていきたいと考えております。AI、DXなどを絡めた地方創生や新サービスの展開を進める企業のIPOですので興味深いものがあります。新NISAが始まり、金融教育が注目される中で、アプリを通じて体験型投資学習支援を行うグリーンモンスターの今6月期業績は売上高20.7億円（+21%）、営業利益3.2億円（+96%）と伸びていることもあり個人的には興味を持っています。1-2月の株高の中で迎える3月のIPO。皆様とともに見守って参りたいと思います。（東京IPOコラムニスト 松尾範久）